



「三重の木」で 家を建てた人たち

実例集 Vol. 10



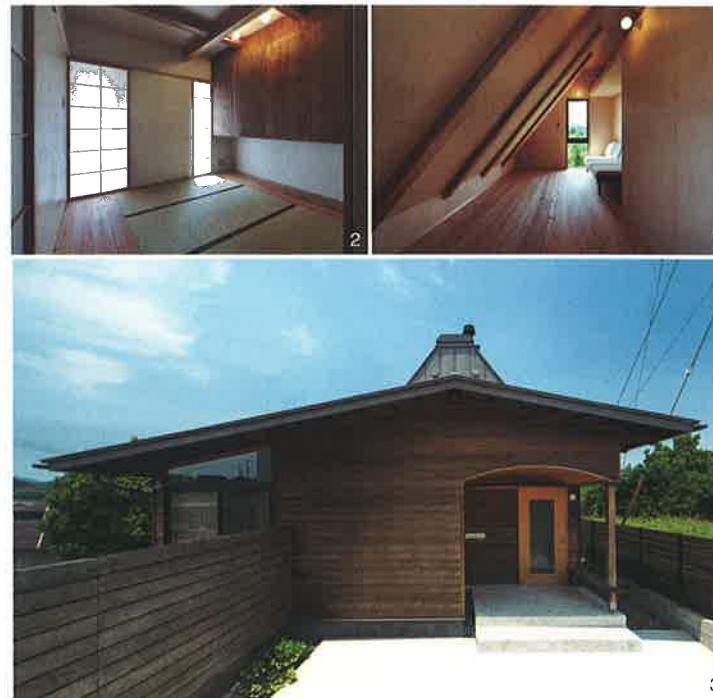
三重の木

case

1

多気町 Kさん邸

動きながらコミュニケーションが とれる眺めのいい高台の家



1／二階南面の小屋裏部屋。手前には窓とカウンター、書棚が設けられ、眺めのいい書斎となっている。
2／和室は手前角の建具が左右に引き込まれ、奥の建具も開くので、板敷き部分は通路の役目も。
3／駐車場からのアプローチ。平屋部分と二階の屋根勾配の違いが歴然。ポーチの天井はアーチ形として訪問者にフレンドリーな印象を与える。左手の板塀は、中庭の目隠し用。

●設計/suga建築設計 TEL.059-279-3364

●施工／(株)ウメダハウジング

●納材／(有)梅田林業

●建築坪単価 約70万円



北東方向からのLDK。無垢スギの柱や床、天井と、こげ茶色に塗装されたラワン合板の造作家具がマッチしている。

「この立地を生かさねばと思いました。南面は屋根の傾斜を緩やかにして下から吹き上がる風の抵抗を抑えつつ、大きな窓で景観と光を取り込み、二階部分は自然の起伏に添うよう北側に寄せました」と設計者の須賀幹夫さん。

「個室は最小限でいい。共働きなので、リビングを中心に動きながらでもコミュニケーションがとれるように。薪ストーブを導入したい」という施主の要望を具現化させた空間は、吹抜けのLDKから、階段、二階まで、引き戸を開け放てばひとつにつながり、家族がどこにいても声が届くうえ、薪ストーブの熱も全館に行き渡る。

構造材は県産スギ・ヒノキ。床と天井はスギ板張りだが、壁は漆喰塗りとして明るく。焦げ茶に塗装された造作家具が空間を引き締める。キッチンの傍らには子ども用のデスクがあり、その延長がベンチに。料理する妻の隣でお絵描きする子、その隣で読書する夫といった睦まじい光景が浮かぶ。子育てファミリーは大いに参考にしたい住まいである。

建築地は高台にある団地の角地。南面には視界を遮るものもなく、連なる山々と田んぼのあいだを在来線がのどかに走り、手前の溜め池には冬、渡り鳥が飛来する。

case 2 鳥羽市 Hさん邸

基礎、竹小舞、土壁、板張り… 施主参加で建てた美杉産スギの家



1／玄関側から見たLDK。土台はヒノキで他はスギ、すべて天然乾燥の美杉材。床の一番上は蜜蠟ワックス、他は柿渋を塗って木を保護している。

2／階段踊り場。リビング上部は吹抜けに。

3／スギで造作したオリジナルキッチン。ランプシェードまでスギだ。

4／無垢のスギ赤身の色を見せたくて、ウロコ状に張った北東の玄関。

5／L字形に開口する南面外観。真壁の柱を守るべく、軒が深く出されている。

●設計・施工／(株)木神楽 TEL:059-279-3001

●納材／三浦林商

●建築坪単価 約70万円

柿渋松煙を塗ったスギの黒板壁と、無垢のスギ赤身板をウロコ状に張り重ねた玄関周りとの対比がユニーク。木こりの施工Hさんは、津市美杉で新月伐採と天然乾燥を行う林業家と出会い、その縁で伝統構法に明るい大工や左官とともに、自邸を一部セルフビルトで完成させた。

「いい木を使って家を建てたいとは誰もが思うけど、コストが高くてつらいという先入観から諦めてしまっていません。自分たちができる範囲のことをやれば木の家は実現できるという手本になればと」

藁をすきこむ荒壁土づくりにはじまり、基礎コンクリート、えつり（竹小舞）、土壁つけ、板張り、塗装…奥様や子供も参加して家づくりを楽しんだ。

玄関を入れると、すぐ土間に面したLDKへ。カイヅカイブキの磨き丸太が、スギいっぱいの空間で異彩を放っている。ボルダリングができる壁、キッチンの収納棚、照明までもが美杉産スギで創作されており（プロの力を借りた部分も）、ひとつひとつ異なる木目の表情や形に癒される。

「節があるのも虫食い痕もその木の個性。建築的な強度に問題がなければよし」というスタンスでした

戦後に植林され、放置されたままの人工林の問題を解決する一助になればと、針葉樹をクリーンに燃焼させる国産薪ストーブも導入している。



case 3

津市 Tさん邸

順光で眺望を楽しむ北開口 段差を活かした五層フロア

「天開口のLDKを北側に配したのは、伊勢湾の眺望を順光で楽しんでいただくため。ハシゴで登るベントハウスの床は格子なので、夏場の熱気抜きに有効だし、屋根に載る展望デッキはストップの煙突掃除に便利だ。エアコンに頼らない暮らしを志向する施主夫妻は、冬場は陽当たりのいい階寝室で、夏場は北側の一階和室で寝られているそう。ぜひ見習いたい知恵である。」



1／第1フロアの和室と夫人の書斎。お子さんは、箱階段上の通気窓から行き来すること。



2／北側からの外観。せり出したベランダが車庫の屋根代わり。
3／第3フロアのLDKは北東に開口。伊勢湾の景色が順光で眺められる。大型建具を開ければベランダと一体の大空間に。

●設計／村林桂建築設計事務所 TEL0598-30-6336

●施工／(株)最上工務店

●納材／松阪木材(株)

●建築坪単価 約89万円

Tさんがマイホームのために手に入れた土地は、津市の高台にある北向き斜面。面積は六十坪弱と充分だが、道路から一・四メートルの段差がある。「二階建てですが、段差を利用したスキップフロアにしました。北側と南側の一層をずらして四層に、さらにペントハウスを設けて五層になっています」

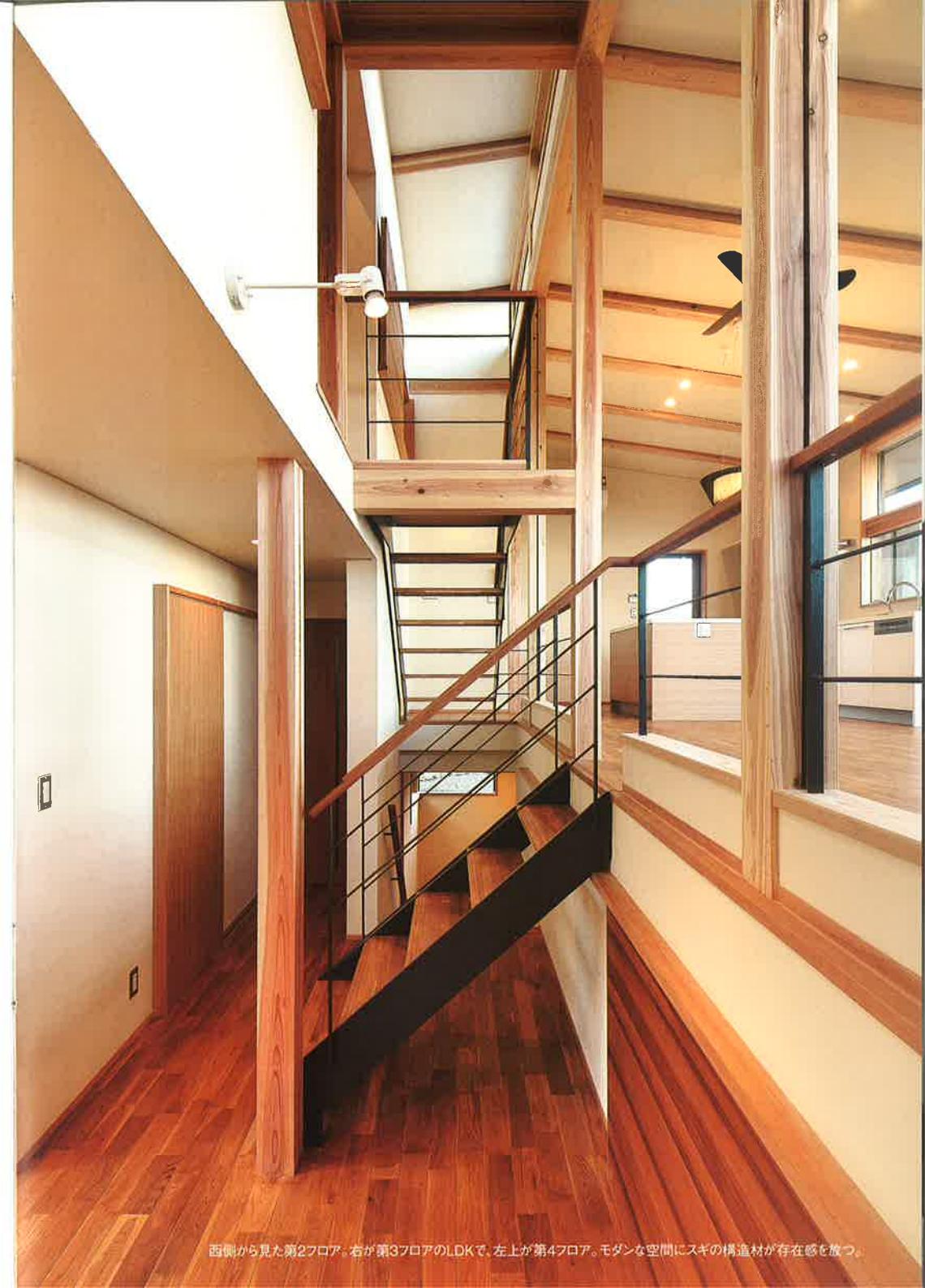
設計者の村林桂さんは、都会の狭小住宅で用いられる手法を取り入れた。

道路レベルの玄関と和室、奥さんの書斎が第一フロア。少し上がった第二フロアにはご主人の書斎と洗面所・浴室。第三フロアがLDKで、第四フロアには寝室と子供部屋。中央の廊下と階段を介してそれぞれのフロアは連続しており、実面積以上に広く感じる。構造材はスギ・ヒノキで、書斎や寝室の床には柔らかいスギを、廊下やLDKには固い広葉樹が使われている。

「天開口のLDKを北側に配したのは、伊勢湾の眺望を順光で楽しんでいただくため」

ハシゴで登るベントハウスの床は格子なので、夏場の熱気抜きに有効だし、屋根に載る展望デッキはストップの煙突掃除に便利だ。

エアコンに頼らない暮らしを志向する施主夫妻は、冬場は陽当たりのいい階寝室で、夏場は北側の一階和室で寝られているそう。ぜひ見習いたい知恵である。



西側から見た第2フロア。右が第3フロアのLDKで、左上が第4フロア。モダンな空間にスギの構造材が存在感を放つ。





case

津市 Iさん邸

4 床はスギ板をヘリンボーン張り 屋根のスロープが地面までつづく家

芝生敷きの地面から屋根の頂部までスロープでつながる大胆なフォルムに目を奪われる。

「ここは住宅地のはずれで、先は竹やぶ。おそらくこの先二、三十年は開発されないと想定すると、ボリュームのあるハコはふさわしくないと思った」

設計者の江口智行さんは、町と自然を隔絶するのではなく、やんわりフェイドアウトさせたいと考えたのだ。グラフィックデザイナーのIさんにとって、新居はS O H O※でもある。独自性のある空間は、発想の助けにもなる。

屋根が北へ流れる最奥のみ一階に水回り一式、二階に寝室があるが、天窓を五つ設けた南面スロープ屋根の下は吹抜けのモノスペース。

大部分がLDKで、玄関からストレートにつづく長方形部分を箱状に囲んで土間床の仕事場としている。公私を分ける壁には窓が三箇所空いており、仕事中のIさんとLDKの家族が、お互いの様子をうかがえる。

この家の個性はデザインだけではない。構造材には天然乾燥させた三重県産のスギを。床にはスギ板をヘリンボーン張りで。ウッドデッキには防腐処理されたスギを使用と、地産地消にもしっかりと配慮されている。

RC（鉄筋コンクリート）ふうの見た目とは裏腹に、木のあたたかみに溢れた住まいである。

芝生敷きの地面から屋根の頂部までスロープでつながる大胆なフォルムに目を奪われる。

「ここは住宅地のはずれで、先は竹やぶ。おそらくこの先二、三十年は開発されないと想定すると、ボリュームのあるハコはふさわしくないと思った」

設計者の江口智行さんは、町と自然を隔絶するのではなく、やんわりフェイドアウトさせたいと考えたのだ。グラフィックデザイナーのIさんにとって、新居はS O H O※でもある。独自性のある空間は、発想の助けにもなる。

屋根が北へ流れる最奥のみ一階に水回り一式、二階に寝室があるが、天窓を五つ設けた南面スロープ屋根の下は吹抜けのモノスペース。

大部分がLDKで、玄関からストレートにつづく長方形部分を箱状に囲んで土間床の仕事場としている。公私を分ける壁には窓が三箇所空いており、仕事中のIさんとLDKの家族が、お互いの様子をうかがえる。

この家の個性はデザインだけではない。構造材には天然乾燥させた三重県産のスギを。床にはスギ板をヘリンボーン張りで。ウッドデッキには防腐処理されたスギを使用と、地産地消にもしっかりと配慮されている。

RC（鉄筋コンクリート）ふうの見た目とは裏腹に、木のあたたかみに溢れた住まいである。



1／柱、階段、床、それぞれに用いられたスギの表情が楽しい。

2／銅板張りの屋根までが住宅地で、芝生部分はRCの間に土を盛った。

※スマールオフィス、ホームオフィスの略。

●設計／江口智行建築設計事務所 TEL.03-6673-7781

●施工／(株)辻工務店

●納材／松阪木材(株)、野地木材工業(株)

●建築坪単価 約70万円



リビング南端から、スギをヘリンボーン張りにした床がユニーク。二階の寝室は折戸戸なので、柱1本残して全開口できる。



三重の木

case 伊勢市 Aさん邸

5 有機的な暮らしを見守る 伝統工法で建てた県産スギの家

瓦屋根に、スギ下見板張りの二階家は、どこか懐かしさを感じさせる。名古屋から移住した六十代の夫婦が妻の故郷に建てたのは、老後をのんびり過ごすための家ではない。永続可能な農業にチャレンジする拠点だ。

地球上にやさしく、農作業や作物の加工に使い勝手の良い住まいを願うAさんが家づくりを託したのは、「みえ木造塾」の設立メンバーで、地域木材や伝統工法による住まいを推進する萩原義雄さん。この家にも構造材から床、壁、天井板まで県産スギ・ヒノキがふんだんに使われている。

玄関は広い土間とされ、泥つきの野菜も人も気兼ねなく出入りできる。シンクと手洗いが設置され、作物を洗つたり加工するのに便利だ。将来の干し野菜づくりも考慮して、館の北側には陰干しに最適な場が確保された。

土間とLDKは三枚の引き戸で仕切られるので、開放放てば一体の空間となり、出荷作業やワーケーションの開催などユーティリティにすぐれる。

二階はワンルームの屋根裏部屋。ダイナミックな合掌梁・板倉工法の壁、追掛け大柱の継手など、伝統の技が随所に。子ども家族やゲストの寝室に、干し野菜のストックにと、いかようにも使える。断熱材に初殻を使うなど、夫妻の思いに共鳴する有機的な家である。



1／ダイナミックな小屋梁と、スギ板落としひみの壁が山小屋ふうの二階。
2／スギの赤身(心材)が張られた浴室。2方向の窓で湿気が抜きやすい。
3／玄関土間の右手は作業スペース。勝手口から干し場へ出られる。

●設計・施工／(株)萩原建設・つくる研究所 TEL.0596-26-3022

●納材／松下製材(有)など

●建築坪単価 約74万円

リビング・ダイニング。ウッドデッキと段差なしでつながるので、大人数の集まりにも対応。左手の梯がキッチンとの間仕切り。



スギ下見板張りの外観。深い軒が雨から木部を守る。ウッドデッキは屋場。木外をかりてコート構成。

case 伊勢市 Nさん邸

6 自然の恩恵をたっぷり享受 スキップフロアでつながる家

Nさん邸は、四方の窓から風と光を取り入れ、木と土壁で湿度を調整するだけでなく、室内環境を快適に保つバッソーラーシステムも装備。冬は鋼板屋根にたまる太陽熱を、ダクトから床下の蓄熱槽に送り込んで屋内に放出。夏の日中は室内の熱気を外へ逃し、夜は放射冷却で冷やされた空気をファンで屋内に送りこむ。

Nさん邸は、四方の窓から風と光を取り入れ、木と土壁で湿度を調整するだけでなく、室内環境を快適に保つバッソーラーシステムも装備。冬は鋼板屋根にたまる太陽熱を、ダクトから床下の蓄熱槽に送り込んで屋内に放出。夏の日中は室内の熱気を外へ逃し、夜は放射冷却で冷やされた空気をファンで屋内に送りこむ。

窓から入る風が、スキップアップした階上へ吹き抜けていく。天井の梁は現しに。床は厚さ三六ミリの無垢板。見える部分の木はすべて津市美杉産だ。

「もりずむさん(NPO法人)のスギです。葉枯らし乾燥など自然のサイクルに沿った木材を供給していく、色つやが良く、調湿や虫の嫌忌効果も期待できるので無塗装のまま用いています」

設計・施工を担当した「明和工務店」の西山浩一代表は、家づくり勉強会を開いて、呼吸する木の長所とともに、伸び縮みしたり割れたりする短所も建て主に理解してもらっている。

Nさん邸は、四方の窓から風と光を取り入れ、木と土壁で湿度を調整するだけでなく、室内環境を快適に保つバッソーラーシステムも装備。

冬は鋼板屋根にたまる太陽熱を、ダクトから床下の蓄熱槽に送り込んで屋内に放出。夏の日中は室内の熱気を外へ逃し、夜は放射冷却で冷やされた空気をファンで屋内に送りこむ。

木造一階建でながら、実は中二階とロフトで四層になっているNさん邸は、省エネと自然素材に配慮された住まいだ。内外装とも、調湿・消臭機能に優れるシラス壁。同素材ながら、左官仕事により内と外で表面の仕上げを変えている。



リビングから北を望む。床や天井、梁は県産スギ。構造材はスギヒノキ。階段を上った中二階にダイニングと家事動線が集約されている。



- 1／ダイニングから二階を望む。採光と通気のため、窓は東西南北すべて開く。
- 2／無垢スギの床とヒノキの框、腰板がすがすがしい玄関。
- 3／ロフトの窓も全て開口できる。ダクトはバッソーラーシステムのそよ風2。

四季や昼夜の寒暖差を利用して室内の空調を整える。

●設計・施工／(株)明和工務店

TEL.0596-52-0199 <http://www.meiwa-k.jp>

●納材／NPO法人もりずむ

●建築坪単価 約65万円



南からの外観。壁は自然素材のシラスを左官仕上げ。玄関横にはリビングバルコニーが。

case 7 四日市市 Kさん邸

手刻みしたスギ丸太の大黒柱が 家族の暮らしを支え、見守る

リビング中央にそり立つ大黒柱の存在感に圧倒される。吹抜けを貫いて地棟を支えるスギ丸太は、家族の暮らしを見守っているかのよう。

「大黒柱を中心に組むと重心が安定しますし、家の顔にもなる。温かみのある丸太柱が好きで、僕の家づくりの特徴にしているんです」

木の香りに包まれる木造二階家は、大工が伝統構法で建てた自邸。構造材は金物に頼らず、仕口、継ぎ手、コミ栓で接合されている。丸太の柱や梁は自ら手刻みした。

「天秤梁もこだわりのひとつです。耐震性が高まるし、飛騨や富山で見られる日本の原風景のような民家のかたちが好きなので。化粧として外部にも見せるようにしました」

内装はスギの羽目板が基調。玄関やリビングの白壁は、シラスとヒノキのチップなどを独自に混ぜ合わせた漆喰を中塗りし、天然の木炭塗料で仕上げている。それぞれの自然素材が持つ消臭・調湿・防虫効果などを自ら体感し、今後の家づくりに活かそうとの試みなのだ。

三人の子どもたちは、賃貸アパートにはなかった豈の部屋がお気に入り。引き戸や階段の手すりなど、ふんだんに用いられている無垢の木に触れるたび、その温もりに癒やされている。



1／二階から見た吹抜け。ダイナミックな架構に圧倒される。窓側には木製のキャットウォークがある。
2／リビングからスキップアップした和室。畳の間があると落ち着く。
3／破風下に天秤梁を現した外観。外壁はガルバリウム鋼板張り。

●設計・施工／(株)加藤建築 TEL.059-337-2188

●納材／ヤマガタヤ産業、小山商店など

●建築坪単価 約75万円



スギの丸太柱が印象的なリビング。床もスギ板で、ダイニングセットもスギによる手製。

間伐が適正に行われ、地表をシダが覆う健康的な森林。



家を建てるなら「三重の木」で

日本は国土の三分の一を森林に覆われた「緑の列島」です。わたしたちは古くから、身近な森林の木で家を建ててきました。

ところが、プレハブや鉄骨・鉄筋コンクリート住宅の普及や新建材の開発により、木材需要が減りつけるばかりか、今やその約七割を安価な輸入材に頼っています。

国産材の利用低下にともない、森林の有する経済的機能は大きく損なわれ、手入れの行き届かなくなつた森林の荒廃が進んでいます。林業や製材業といった地場産業は低迷し、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止に寄与する二酸化炭素の吸収・貯蔵といった森林の持つさまざまな機能が發揮できなくなっているのです。

健全な森林機能を維持するには、木を伐つて、植えて、育てるという「緑の循環」が必要です。わたしたちができるのは、積極的に近くの山の木を使うこと。三重で家を建てるなら、品質の確かな「三重の木」で。

本冊子は、おもに「三重の木」認証材等の県産材を使って、三重県内に建てた住宅の実例集です。建築坪単価は住宅の大きさや間取り、建築地によって異なりますので、参考程度にお考え下さい。

三重県木材協同組合連合会 <http://www.mienoki.net>
三重県津市桜橋1丁目104 TEL059-228-4715 FAX059-226-0679

「三重の木」認証業者